

English Through Pictures, Book 2

を授業に利用しはじめて

鈴木 弘 之

1. はじめに

吉沢、升川両先生を北陸の福井へお迎えしたのは、昨年(1967)の11月でした。福井商業高校で県の英語研究会が開かれ、升川先生の研究授業、その後吉沢先生の G.D.M. についてのおはなし、質疑応答が行なわれ、私はなんら目的もなしに出席したのでした。その帰りに本屋へ立寄り、EP 2 を買って、横になりながら読み始めました。ページを追うにつれ、これはただならぬ書物であると感じはじめ、何とか生徒に紹介せねばと一種の決意が生れるのを感じました。というのは私も教員生活8年を過してきましたが、受験だやれ進度だと迷いながら、いつも欲求不満に悩まされて今日に至ったといってもよいでしょう。特に英作文の授業の如きは、気の善い生徒が三文の行を写し間違えて、珍答を板書した時ぐらいしか笑えませんでした。こんな有様ですから、何か本物の英語教育をやってやりたいというエネルギーが、膿のようにたまって、今その排出の時機が訪れたと言え、学問の冒瀆になりましょうか。このような気持で、EP 1 と 2 を、語い・内容・文型の三面から、まったく我流に整理してみました。

2. 語いについて

EP が Basic English に基づいていることは、いまさら言うまでもありません。EP 1, p. 17 に "This book will teach you the first steps of English. It gives you about 500 important words in sentences, with the meaning shown through pictures."

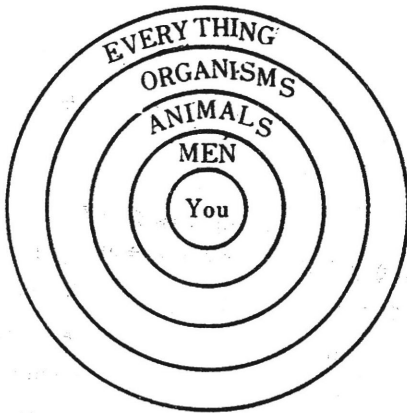
EP 2, p. 2 に "That book (EP1) uses about five hundred words of English in a great number of different ways. Using those same words, together with about the same number of new words and more pictures, this book (EP2) goes farther into the language. This new book uses about a thousand words of English." とあります。

その他、EP を支える大事な語いとして、多くの重要な歴史的人物が現れます。EP 1 では Newton 等5, EP 2 では、ガリレオを中心として、孔子、孟子、ブレイクまであらわれ、その数は30人をこします。

また EP 1 で専門的な語いと思われるのは、new moon, light year. 等2, 3 にすぎませんが、EP 2 では feed-back, feed-forward, photosynthesis 等50近く出てきます。

3. 内容について

EP 2は233ページから成り立っていますが、章にも節にも分けてありません。相互関連の上に立っているために分けられないのです。しかし生徒にこのtextの不思議な力を紹介するために、次のような一枚に矢印等を用いて、まとめてみました。



最も簡単に要約すれば、p.230に図示されているように、主体→総体、個人→事物一般へと世界が広がっていくのです。それを支えるものは、understanding, knowledge, thinkingであり、その手段はspeech, languageであると強調しているようです。

4. 文型について

いかなる教科書でも生徒に利用させるためには、文型の面でも細心の注意を払わなければなりません。したがって、どんな方法で文型を整理すべきか迷いました。そのあげく、安易な自分勝手な方法ですが、龍口直太郎・高木大幹共著、英文解釈便覧(A Table of English Translation) 評論社を参考にして、整理分類してみました。その結果、School grammarで目標としている事項は完全にカバーされていること、比較に関する文型がきわめて多いことが特筆すべきことでしょう。

これらについては、後日機会があれば述べさせていただきます。特に文型の面の整理は今後の大きな課題だと思います。

5 Teaching Practice (2年12組を中心に)

以上の調査を終えて、三学期から実際に授業に利用しました。私は一年生4クラス、2年生2クラスを担当していましたから、全生徒にtextを買わせ、進度の差は生じましたが、それぞれのクラスで尊い経験をえました。6クラスの中で最も充実して行なえたのは、2年12組でそれについて、少し述べます。

この学級は、本校第Ⅱ類型(進学希望者)50名から成っています。第Ⅱ類型200名のうち成績上位者100名を特別編成し、残り100名を均等に配分した1つが2年12組(他の1つは2年10組)です。又学校全体のレベルは、福井市内に普通高校が3校あって、そのうちの3番目とされているように、決して学習意欲の旺盛な高校とは言われません。

この学級で、Reader 3/week, Grammar & Composition 2, NHK Listen to me 1計6/weekのうち、Lを除く5/weekを私が担当していました。3学期始めから中間考査までは2/6時間、中間考査以後年度末までは5/6時間をEP2に当て、試験範囲はプリントでカバーし、完全な自学自習をさせることによって、他の第Ⅱ類型3クラスと同問題で受験させ、何とか危機を逃れました。このようにして30時間程試行錯誤的授業をくり返した後、2月27日に、本校英語科内の研究会で授業を観ていただき、反省会も開いてもらいました。教案は別紙の通りです。その結果については割愛させていただきますが、ただ自分にとっては、少なくともよい勉強になり、今後の足がかりができたという事です。

EP2の授業を終えた学年末に次のアンケートをとってみました。

第1表

対象	2年12組	49名(1名欠席)
実施日	昭和43年3月9日	
問1	従来のR.G&Cにくらべて	
a.	楽しかった	61.2%
b.	つまらなかった	8.2%
c.	変りなし	30.6%
問2	英語で考え、英語で発表することによって英語を本当に学習しているという感じは	
a.	わいてきた	61.2%
b.	わからない(以前よりも)	6.1%
c.	変りなし	32.7%
問3	従来よりも学習内容が	
a.	緊張して疲れるけども身につく	53.1%
b.	疲れるだけで身につかない	22.4%
c.	変りなし	24.5%
問4	授業中の自分(生徒)の態度は	
a.	授業に引きずり込まれる	73.5%
b.	従来より息抜きできる	10.2%
c.	変りなし	16.3%
問5	大学受験にマイナスになると	
a.	思わなかった	26.5%
b.	なると思ひ不安だった	30.6%
c.	変りなし	42.9%

次に他の均等配分された学級(2年10組)との比較をしてみます。試験問題はR60点、G&C40点で第Ⅱ類型200名に共通のペーパーテスト。(第2表)

6. 43年度の計画

本年度は一年生480名 10クラス全員が週1/6時間をEP1を利用した授業を受けます。担当教官3名。2年からは類型別に学級編成されるので、第ⅠA類型2クラス(女子

第2表

学級	授業内容	授業担当者	1月8日～2月5日		2月12～3月12日	
			週り間の数 あつた時	中間考査 平均点	週り間の数 あつた時	期末考査 平均点
2の10	Reader	×	3		3	
	Grammar & Composition	×	2	55.4	2	48.2
	Listen to me	×	1		1	
	EP2	×	0		0	
2の12	Reader	S	2		0	
	Grammar & Composition	S	1	55.5 (+0.1)	0	45.3 (-2.9)
	Listen to me	S	1		1	
	EP2	×	2		5	

96名)を対象に私がEP2を週5/6時間行ないます。残りの1/6時間は、NHKのListen to meです。44年度も第ⅠA類型は学級編成に変更がありませんから、2年間継続してEPの授業を担当できる予定です。なお上の2クラスのうちの1学級を私がホーム担任も兼ねています。

最後に、私はまだEPを片手にヨチヨチ歩きを始めたばかりですが、いろいろ親切に御指導下さっている片桐・升川両先生及び並々ならぬ理解と協力を惜まない羽水高校英語科の先生方に感謝しつつ、第1回の報告を終らせていただきます。 昭和43年3月

(福井県立羽水高校教諭)

News

岡部幸枝さん7月24日に男子2人誕生——秀紀(ヒデノリ)君、伸哉(シンヤ)君。

【名著紹介】

Basic English and Its Uses

萬 戸 克 憲

English Through Pictures を使って一つ大きな疑問に思っていたことは、この教材やその配列は日本の現状に合っていないんじゃないかということでした。

これはフリーズの“Foundation for English Teaching” 7 ページでしたか

The second consideration upon which this selection rested was the results of a careful comparison of the basic signaling devices of Japanese with the active functioning patterns of English. というくだり、すなわち、英語の言語記号の仕組みとして重要な事柄と同時に母国語の基本的なやり方と対照的である事柄を初期に導入し教材全般にわたって用い発展させる、ということです。

世界的にみて特異な言語構造をもつ日本語を母国語とする日本の学生には当然違った配列があつて然るべきだと思ったのです。しかし、この Basic English and Its Uses を読んで、E.P. の背後には Basic English という大きな母体がある。しかもその母体は、

1. 世界の相互理解をめざしている。

2. 単語や文型は最少限にしてあるが、それは使用頻度からではなく意味論上からの重要性による。

ここまでではセミナーで学習した覚えがあります。(次の事も学習したのでしょうか、はっきり記憶がありません。)

特に面白いと思ったのは、

3. 目という視覚が、学習に非常に役立つものであるが、基本語のほとんどは視覚的な意味をもつ。

それに

4. forgetting と remembering の心理学上の法則に従って教材の配列がなされているということ、

などです。このような十分な配慮がなされている以上、今度はこのような見方から、もう一度初学年を担当し教えようと思っています。

私の立場から特に面白かったのは、これらを含む film の効用を説いた第5章言語教育に、これ程の全面戦争を採用強力な武器を開発していることは、これが今から二昔以上も前のことだと考えると、大へん面白いと思います。

というのも最近視聴覚教具そのものの教育的意義を考え、それぞれの受持分野をその本質に従ってわけの必要がある。そしてそれができれば最も合理的かつ効果的な教育方法が確立されると思うからです。

English Through Pictures, Books 1 and 2 ¥ 220 each
First Workbook of English ¥ 170
First Steps in Reading English ¥ 170
Teachers' Handbook for English Through Pictures ¥ 400
Anglophone Records for English Through Pictures ¥ 6,000 each
Filmstrips for English Through Pictures, Series 1 and 2 ¥15,320 each
(海外注文)

チャールズ・E・タトル商会
神田店 東京都千代田区神田神保町1-3
TEL. (291) 7071
高島屋店 東京都中央区日本橋高島屋
6階 TEL. (211) 5029

第11回公開講演会（於東京）に出席して

吉 田 龍 恵

実際にクラスをもっていなかった昨年までは、自分でできもしないくせにケチをつけたがったものだが、クラスを持っている今では、東山・山田両先生の授業実演は両先生の個性を生かされたすばらしいもので、ただ感嘆するのみ。パネルディスカッションにしろ、実演授業にしろ、もちろん、質問もあり、意見もないではなかったが、時間がきわめて制約されており、外部をいれての公開の催しでもあったので自重する。

●実演授業

1. Hのかき方は山田先生も同様だったので安心した。
2. 先生と一生徒の対話に“You will give your note books to me.”の練習があったが、はたして実際問題として、そうたびたびこの様な状況がありうるだろうかという疑問を持った。(I am here. などと同じ)。しかし、その直後 stamp, coin, handkerchief, etc. の例が出て“誰かにあげよう”ということになり、皆一斉に手をあげ、なるほどとうなずかされる。
3. 山田先生が“暑い”という意味で使われたhotは、直ぐテキストの word list にはまだ出ていない。今までに使われたか、中学校の教科書にあるから生徒も知っているのだろうが、GDMではhotよりwarmが直ぐ出てほしいように思う。
4. 小学生グループにアルファベットの読み方をあくまで教えていない。余計な徒労だと思うからである。ところが、一方、単語の綴りはあのときのように初歩の段階ではSaturdayと口ぐせに教えるべきであると前から思っているが、この点で、単語が難かしくなっ

てくると矛盾を感じることに今気がつく（今のうちにはhat, nose……の段階だからよいのだが）。

5. 子供の絵が上手だ。今までに何回もかかせたことがわかる。

●パネル・ディスカッション

確かに司会者の言われた様に、少々抽象的になったきらいがある。What, howは当然として、whyが大切だから宿題にするといわれたが、真意がつかみかねる。これは、先生方が英語、英文学の専門家だからではないだろうかと思ふ。

昔、“役に立つ英語”ということがいわれ出した時、時を同じうして why が論争された。かって、私も一度日教組大会に不本意ながら出席したことがあるが、今でも why は歓迎されるテーマだろう。日教組の場合には何故英語ばかりでなければいけないかという意味の論争が多く、当時私は驚かされたものだが世界語ということがいわれるようになって、今更の如くなるほどとも思う。そういう意味の why? なのか、それとも外国語全般に対する why なのか一寸わかりにくい。私は常に学生に“Englishの究極の目的はBusiness Englishである”と強調している。それが偏見であることは十分承知しながらも確信をもっていつてきた。“役に立つ英語”がいわれはじめたとき、私は生気を吹き返したことを覚えている。矢張り役に立ったのである。

片桐先生が外国でも英語を知らなくても大ていの用は足りうるだろうといわれた。本当だろうか。貿易実務では絶対ダメである。中田先生もいわれた通り、その中味が問題である。私は各大学へ行くチャンスに、私自身が

ベトナム人にも韓国人にも台湾人にも、とにかく殆どのアジア人に見えることを利用して、学生の憩いの場に入り込んでいって、英語で物を訊いたり話し込んだりする。その大学の学生の質（英語に関する）を知ろうとするタチの思いやり方だ。その時の学生にもよるので、その確率は殆ど0に近いが、それでも一般に簡単なことが英語で答えられないのに驚く。そしてパントマイムが始まる。それで大体答は察しがつく。このことを言っておられるのだろうが、確かにマクルーハンの影響がなくても、言葉で意を足そうとするとところに問題はある。“役に立つ英語云々”が論じられたとき、日教組大会で或る英語の先生が、外人と話すとき、すべて絵で用は足せると発言があった。よくもまあ、憶面もなく、とその時は驚嘆もし、啞然ともしたが、今になってみると先兄の明ある先生ではなかったかと思う。しかし、中味である。矢張り実務のためにはどうしても言葉は必要である。只英語だけで果してどの程度事足りるかということになるとこれは大きな疑問を含んでいるし、又、世界語という必要性が切望される。そしてこの世界語は果して今のような言葉なのだろうか、何らかの形象なのだろうかということになるとこれも大きな問題となる。又、言葉であるとしても短いものか、単語の羅列的なものになるかもしれない。

前からこのことについては考えていたので興味はあったが、果して皆に共通の問題か否か？ Why は外人に漢字を教えているとき、

News

サマー・セミナー、東京では7月26日から31日まで約65名が参加し盛会のうちに日大二高を会場としておこなわれた。

関西では六甲セミナーとして、YMCAの山荘で小学5～6年生の実験クラスとともに約人が参加して8月19日から22日までひらかれる。

萬戸克恋さん（神戸市立上野中学校）はフルブライト計画でテキサス大学に留学のため8月31日に出発する。

高原脩さん（松蔭女子学院大学）はインディアナ大学で1年間、言語学を研究するため8月に出発。

時々同情をもって感じることもある。

時に英語は、心臓が強いのか、頭が悪い方がspeakingはできるように思うことがある。学生の英語を聞きながら、（特にFree talk-ikgやA.F.S.の審査の時、女子受験生がニコリ笑って答えるときなど）感じることもあり、少なくとも男性たるものの一生をかけてする仕事ではないようにさえ思うことがある。ただし、子供は一般に知能程度が高いほど英語が上手であるように思われる。

出席者の一人の質問に「山田」を英語的アクセントにしては？というのがあったが、甚だ属国的で嫌である。山田先生や片桐先生のお答えはその点で気持ちがよかった。私も常にそうしているつもり。その点、新幹線で時々、ト・キ・ヨー(tokiyō)とかの日本語をきき、又、カマキューラなどときくと全くイヤになる。その点、両先生のお答えは気持ちがよかった。

パネル・ディスカッションは他のグループの人にはよかったかもしれないが、会員には抽象的すぎて、真意がわかりにくかったのではないのでしょうか。昨年の夏のセミナーとは異なり、今は吉沢先生著“絵で見る文型練習”を並用しているため、忠実にその指示に従ってやっているの、お会いし親密感がわいた。とにかく実演授業はわりに生徒がセレクトされているグループであったにせよ、外部からの出席者にも大きな感銘を与えたのではなかろうか。